

## 平和教育の取組事例報告書

報告年月日 令和5年3月20日

都市名・国 大阪府富田林市

取組の名称	時をつなぐ平和絵本（被爆体験絵本）の作成
実施主体 (該当項目に✓)	<input checked="" type="checkbox"/> 学校 <input checked="" type="checkbox"/> 自治体 <input type="checkbox"/> NGO <input type="checkbox"/> 複合（ ）
テーマ・目的	被爆・戦争体験と平和への思いを継承
対象者 (年齢・学年、人数等)	すべて (例:12歳の子ども60名、保護者や市民30人など)
実施場所	市内中学校
実施期間	令和3年度より事業実施 毎年度発行予定
<p>取組の概要（授業、イベントはプログラムの次第を、その他（例：コンテスト等）はそのプロセスを、具体的に記入してください。）</p> <p>「時をつなぐ平和絵本」は、中学生が市内在住の被爆された方から直接被爆・戦争体験を聞き、その体験談のひと場面ごとに絵と文章を作成し1冊の絵本にする取り組みです。 完成した絵本は、市内小中学校・図書館や関係機関へ配付しています。</p>	
<p>参加者の反応</p> <p>被爆体験者の方から、戦争の悲劇を語っていく思い、戦争はもちろんのこと原爆の悲劇は二度と繰り返してはならない、世界中が平和になることを心から願っていることが語られました。 絵本の制作に取り組んだ生徒さんからは、被爆者の方のお話を実際に聞いて、痛みや苦しみ、戦争の本当の恐ろしさを知ったこと。絵本を描くにあたって当時の様子を色々調べて深く知ることができたこと。戦争の悲惨さや残酷さを忘れずに、語り継いでいかなければならないなどの感想がありました。</p>	
<p>成果</p> <p>中学生が絵本の制作を通して被爆の実相と平和の尊さを知るとともに、被爆者の平和への思いを受け継ぎ、伝え、広げていくことの大切さを認識する貴重な機会となっています。</p>	
<p>課題</p> <p>戦後77年が経過し、被爆・戦争体験者の高齢化が進むことで、戦争体験の継承が難しくなっていること。</p>	

取組で使用した素材について（図書、映像、パワーポイントなど。内容をわかりやすく簡潔に記入してください。）



令和3年度（左）・令和4年度（右）作成「時をつなぐ平和絵本（被爆体験絵本）」完成した絵本のデータを以下リンク先（富田林市HP）よりご確認ください。  
<https://www.city.tondabayashi.lg.jp/soshiki/19/61149.html>



市内中学校の平和登校日に行われた被爆体験を聞く会

上記素材の共有の可否（取組で使用した素材を、平和首長会議のWEBサイトに掲載し、他都市と共有することに、著作権その他の問題がないか、次からお選び下さい。）

掲載可能（素材を添付してください）       掲載不可       不明

※ 画像等の資料がある場合はメールに添付して提出してください。